

読
む

AGMC 2026 NO.04 SPRING

- ◆ 副院長（呼吸器内科長）メッセージ
- ◆ 摂食嚥下サポートチーム／院長／薬剤部
- ◆ セミナー情報
- ◆ ホームページをリニューアルしました！

もっと知りたい！『聴くAGMC』出演者のこと

◆ クリニカルパス委員会

AGMC部会・委員会図鑑



出会うの季節は、 進化の季節

美しい季節がやってきました。

兵庫県立尼崎総合医療センター（AGMC）の敷地内でも

たくさんの桜や色とりどりの花、まぶしい新緑が

目を楽しませてくれています。

春は出会いと別れの季節でもあります。

当院でも、医師や看護師など、スタッフの入れ替わりがありました。

新たに加わった仲間これまでの経験や技術を

柔軟に取り入れることで進化しながら、

チーム医療を重視するAGMCならではのチーム力で

一丸となってより質の高い医療を提供してまいります。

またこの春、当院のホームページをさらにリニューアルいたしました。

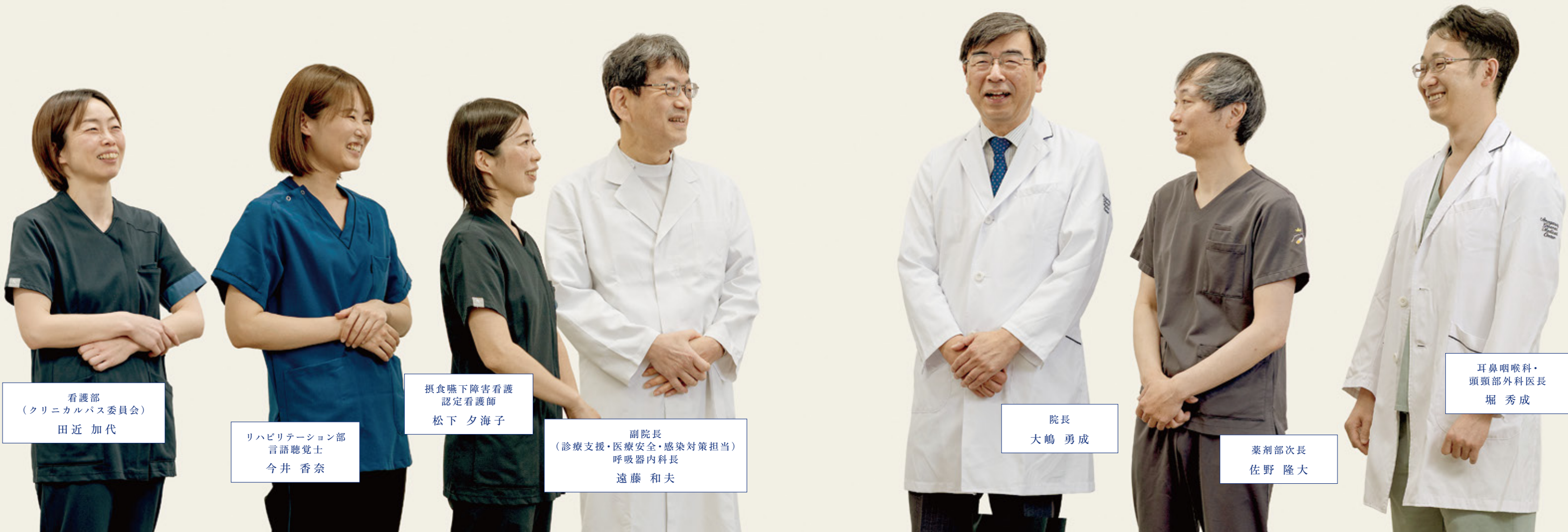
これまで以上に知りたい情報にたどり着きやすくするために、

そして、新たな情報と出会いやすくするために

改善を重ねて進化しましたので

パソコンやスマートフォンでぜひアクセスしてみてください。

Web
知る AGMC
「読む」 AGMC
「聴く」 AGMC
ラジオ
HPがリニューアル！
QRコード



看護部
（クリニカルパス委員会）
田近 加代

リハビリテーション部
言語聴覚士
今井 香奈

摂食嚥下障害看護
認定看護師
松下 夕海子

副院長
（診療支援・医療安全・感染対策担当）
呼吸器内科長
遠藤 和夫

院長
大嶋 勇成

薬剤部次長
佐野 隆大

耳鼻咽喉科・
頭頸部外科医長
堀 秀成

病院の「部会・委員会」って？

学校に「図書委員会」や「美化委員会」があるように、病院にもいろいろな部会・委員会があります。それぞれの部会・委員会には、医師や看護師だけでなく、薬剤師や臨床検査技師、事務スタッフなど、院内のさまざまな職種が集まり意見を出し合いながら「どうすればよりよい病院になるか」を考え、さまざまな取り組みを行っています。

クリニカルパス委員会

何をしている委員会？

患者さん・ご家族に安心して質の高い医療を受けていただくためにクリニカルパス(*)の作成・評価・見直しを通して、より質の高い医療の提供を目指すことを目的に、医師・看護師をはじめとする多職種それぞれが専門性を発揮し、連携活動している委員会です。



* クリニカルパスって？

~予定入院患者さんには、患者サポートセンターで入院前に説明~

患者さんが入院中に受ける治療内容や食事などの予定を時系列で示した治療計画書のことで。患者さん・ご家族が入院から退院までの予定を把握できるよう視覚的に工夫をしています。皆さんの入院や治療に対する不安を少しでも和らげたいの思いでつくっています。また、さまざまな医療スタッフがクリニカルパスを通して患者さんごとの治療方針や予定をスムーズに共有することで、良質で安全な医療の提供につなげていきたいと考えています。

カテーテル設置手術を受けられる方のクリニカルパス▶

あってよかった! クリニカルパス

手術前に入院についての準備品や今後の流れを説明されたのですが、たくさん説明があり、まったく頭に入りませんでした……。でも、この予定表をいただいていたおかげで、後でゆっくり見返すことができました。

(30代 女性)



手術後の生活や退院予定のめどが分かるのは助かります。入退院時は家族の付き添いが必要なので、家族の予定も立てられて助かりました。

(60代 男性)



これからは、患者さんの早期回復を目指し、専門職による入院前支援にも力を入れていく予定です。例えば、全身麻酔手術を受けられる患者さんに対し、入院前からコンディションを整えてもらうための栄養指導や術後の痛みの管理などについての説明も重点的に行う予定です。

すごいぞ! AGMC

第25回日本クリニカルパス学会学術集会で優秀賞を受賞しました

2025年10月17~18日に開催されました第25回日本クリニカルパス学会学術集会において、委員会所属の田近看護師が優秀賞(全国第3位!)を受賞いたしました。タイトルは「応援団参戦!~院内パス大会を活性化~」。院内のクリニカルパス大会の活性化のため多職種一丸となった取り組みについて学会で発表し、高い評価を得ました。



新しい取り組みが評価され、とてもうれしく思います。これからもクリニカルパスの作成・見直しなどを通して、患者さんの安心・安全につなげていきたいです。

看護師 田近 加代



AGMCは阪神間の呼吸器疾患の「砦」 地域とつながり患者さんを支える

MESSAGE FROM AGMC PERSON

副院長 (診療支援・医療安全・感染対策担当) 呼吸器内科長 えんどう かずお 遠藤 和夫

「充実して過ごす時間」に寄り添いたい AGMCの呼吸器内科の 特色について教えてください。 呼吸器内科では肺がんや肺炎、喘息など呼吸に関わるさまざまな病気を扱っています。AGMCの入院診療の主軸は肺がん治療で、慢性疾患は地域のかかりつけ医へ引き継ぎ、地域全体で患者さんを支える体制を構築しています。 呼吸器内科医は全国でも少ないため若手医師の育成も課題の一つ。4月から新たな専門スタッフを迎え、肺がん以外の領域もより充実させていく予定です。 — 医師として、どのようなことを大切にしていますか? 私の医療観の原点は、長年肺を患い入院を繰り返した父の存在にあります。父が病と向き合う様子を間近に見て育った経験から、「病気があっても、寿命を迎えるまでその人らしい時間をどう過ごしてもらおうか」を大切に考えるようになりました。この視点は在宅酸素療法が普及し始めた25年ほど前、塚口病院の頃に他の医師や看護師たちと協力して、呼吸器疾患をお持ちの患者さんと淡路花博へ外出した思い出とも重なります。患者さんのうれしそうなお姿が今も印象に残っており、病気になることも人生を楽しむことの大切さを改めて感じた出来事でした。 — 未曾有のコロナ禍と、地域に支えられた日々 コロナ禍は今までに体験したことのない激動の日々でした。当院では第一種感染症指定医療機関として初期から患者さんに対応。毎朝の会議で当日の病床運用を検討するなど、スタッフ一丸となって立ち向かいました。 — 先生は院内の感染対策責任者と伺いました。 コロナ禍にはどう対応しましたか? 未曽有のコロナ禍と、地域に支えられた日々

My Off Time

夫婦で御朱印巡り 音楽や落語も気分転換に

休みは自宅でゆっくりすることが多いのですが、夫婦で御朱印巡りをすることもあります。お参りの後、土地の名物に舌鼓を打つのも楽しみの一つ。クラシック音楽のコンサートや落語の寄席に行くのもいい気分転換になっています。

奈良にある 談山神社の 青紅葉と。



社会的な風評被害に心を痛める時期もありましたが、近隣の学校や企業の皆さまからの温かい励みや差し入れが、現場を支える大きな力となりました。この経験で得た「組織の団結力」はAGMCの大きな財産です。 — 患者さんへのメッセージをお願いします。 コロナやその他の感染症に「自分が感染しない」以上に「人に感染させない」ためにも、咳エチケットは引き続き守ってください。また健康寿命を延ばすためにも、65歳以上の方の肺炎球菌ワクチンの定期接種などの、自治体が案内する予防接種は積極的に受けてほしいですね。予防接種などを通じて地域のかかりつけ医を持ち、いつでも安心して相談できる関係を築いていただきたいと思います。AGMCの呼吸器内科としては、いざという時には阪神間の呼吸器医療を支える砦として私たちを頼っていただければ、質の高い医療を提供し続けます。

引き続き咳エチケットの励行を

摂食嚥下サポートチーム

摂食嚥下とは、『食べ物を目で認識し、口に取り込み、咀嚼して飲み込み、胃へ送り込む』までの一連の動作です。脳血管障害、神経筋疾患、加齢などに伴い、この動作のどこかが障害されることにより誤嚥性肺炎や窒息などのリスクとなる場合があります。当院では、そのような摂食嚥下障害患者さんの支援を目的として、2019年5月より「摂食嚥下サポートチーム」による活動を開始しました。現在は入院患者さんを対象にサポートを行っています。



チームメンバー

- 摂食嚥下に関する専門的知識を有した多職種で構成されています。
- 医師 ● 歯科医師 ● 言語聴覚士 ● 管理栄養士
 - 摂食嚥下障害看護認定看護師 ● 歯科衛生士

活動内容

『摂食嚥下ラウンド』で入院患者さんの状態を確認し、食事形態や摂食嚥下時のポジショニング、食事介助方法、病棟で実施できる嚥下練習、口腔ケアなどについてのアドバイスをしています。必要に応じて、さらに詳細に状態を把握するため耳鼻咽喉科外来での摂食嚥下機能検査(内視鏡下嚥下機能検査や嚥下造影検査)を行っています。

摂食嚥下チームの一日

摂食嚥下ラウンド

ラウンドとは…?

患者さんや院内の状況確認や問題解決のために、多職種が共同で病室を巡回することです。AGMCでは摂食嚥下だけではなく、さまざまなラウンドが実施されています。

1 08:30

電子カルテより情報収集

病棟の看護師が事前に登録した患者さんについて、担当各自が情報を収集します。(病院全体で1日大体10人前後登録されています。)



10:00

ラウンド開始

依頼のあった病棟に集まり、ラウンドを開始します。

10:05

情報共有

患者さんにどのような嚥下の問題があるか、事前に得ている情報をメンバーで共有します。患者さんを普段から見ている病棟担当看護師からも情報をもらい、今後の方針を決めています。

10:15

患者さんのベッドサイドで評価

患者さんのベッドサイドで、飲み込むことが可能かどうかや食事の硬さや大きさに問題がないかの評価を行います。評価の結果をもとにメンバーで話し合い、今後の方針を担当看護師へ提案します。



10:20

記録

ラウンドした際の記録の入力を必ず行います。



11:15

ラウンド中

当日緊急で依頼があった場合も、状況に応じて対応しています。1日でも絶食が続くと食べる機会が減ってしまうため、早い解決を目指します。院内携帯へ連絡があった際は追加で対応しています。



11:30

ラウンド終了

患者さんへ提案した内容に相違がないか、メンバーで共有と確認を行います。

各自の業務へ

17:00

摂食嚥下機能回復体制加算カンファレンスの実施

言語聴覚士(ST)のもとでリハビリを行っている患者さんを対象に、摂食機能療法の算定を行います。週1回、摂食嚥下チームのメンバーでカンファレンスを行い、患者さんの治療方針などについて話し合っています。



2025年12月16日(火)出演/ラジオではこんなお話をしてきました!

「食べる」ことは回復の第一歩 多職種の専門性で、摂食嚥下障害に挑む!

POINT!

- 摂食嚥下障害について
- 治療のための栄養摂取
- チームラウンド
- 全身の筋肉が大切
- 歯を大切に!

ラジオはこちらから聴けます!



フカボリ 2

心に残っている患者さんとのエピソードは?

嚥下障害のため食事摂取に不安や恐怖心強い患者さんに対して、病棟看護師が気持ちに寄り添いながら丁寧にお話をお伺いしたり、また、チームで食事開始のタイミングやリハビリの内容を検討したりした結果、最終的には常食(特別な制限や加工をしていない、通常の食事)まで摂取できるようになりました。退院時の「食べられるようになってうれしかった」という言葉が印象に残っています。(松下)

体調が万全でない中でもリハビリは始まります。言語聴覚士の関わるリハビリは、話す・食べるだけでなく記憶力や注意力など頭を使う内容も多く、疲れやすいもの。リハビリを「つらくしんどいこと」にならないよう、前向きに取り組める工夫を日々心がけているので、リハビリ中の患者さんからの「先生の顔を見ると安心する」という一言はうれしい言葉でした。(今井)

読者の方・患者さんへのメッセージ

おいしく食事ができることは、本当に素晴らしいことだと思います。摂食嚥下と聞くと喉や口腔の障害を想像するかもしれませんが、「食べて、飲み込み、栄養を摂取する」ことは脳や呼吸、内臓、筋肉、精神面など全身が関わる複雑な動作です。回復への一歩となる摂食嚥下を、私たち摂食嚥下サポートチームが多職種それぞれの専門性を生かして支えています。飲み込みについて気になることがあれば何でもご相談ください!

フカボリ 3

休日の過ごし方

旅行、温泉が好きです。細かくスケジュールは決めないタイプです。今年は夏休みを利用して富士山登山にチャレンジしましたが、天候に恵まれず8合目で断念。次は頂上を目指したいです。(今井)

趣味はテニスとワインです。テニスは大学から本格的に始めて、週1でスクールにも通っていました。ワインは赤・白どちらも飲みますが、特にブルゴーニュの赤ワインが好きで、自宅ゆっくりと香り風味を楽しみながら嗜む一杯が至福です。(堀)

リクエスト曲

YUI

「fight」

国家試験を受けていた時によく聴いていた曲。くじけそうな心を支えてくれました。

リクエスト曲

コブクロ

「君という名の翼」

この曲を聴くと思い出すのは浪人1年目の夏。不安な時に勇気づけられた一曲です。

リクエスト曲

Aa! group

「Hello」

願うよりも一歩踏み出して今を変えろ、という歌詞の内容に、育休復帰後は励まされました。

富士山で、さあ光が8合目からとあってしまったので、今回は頂上を目指します!

休日には趣味のテニスで汗を流しています

家族との時間があふれるからこそ、仕事頑張ります

今井 香奈

堀 秀成

松下 夕海子

耳鼻咽喉科・頭頸部外科医長 堀 秀成
 摂食嚥下障害看護認定看護師 まつした ゆみこ
 言語聴覚士 今井 香奈

摂食嚥下サポートチーム

AGMCの強み「救急・周産期・高度ながん医療」

救急 1~3次救急に対応する、大規模「ER型救命救急センター」

救急外来は救急専属の医師(救急専門医)が24時間・365日交代で対応しています。



当院の救急外来って…

誰でも診察してもらえるの？



年齢や診療科に関係なくどんな病気やけがでも対応します！

いつ行ってもいいの？



24時間365日いつでも受診できます！

電話しなくていいの？



基本的に事前の電話連絡は必要ありません！

詳しくはホームページ内「救急外来」をチェック！



周産期 妊娠中から産後まで切れ目のない高度医療体制

地域で出産できるクリニックなどが目減りする中、AGMCは医療圏内の周産期医療の柱です。母体・胎児集中治療室(MFICU)や新生児集中治療室(NICU)などを備え、ハイリスク分娩(切迫早産など)や、先天性や重症の新生児疾患にも対応できる「総合周産期母子医療センター」として高度な医療を提供しています。



高度ながん医療 質の高いがん医療を提供する国の指定を受けた「がん診療連携拠点病院」

地域医療機関と連携し、専門的ながん医療の提供(高度な手術・化学療法・放射線治療など)や緩和ケアへの対応、在宅医療の支援、がん患者さん・ご家族などに対する相談支援、セカンドオピニオンの提供、がんゲノム医療の提供など、地域におけるがん診療体制の充実を図っています。がんでお困りのことがあれば、お気軽に「がん相談支援センター」へご相談ください。

がん相談支援センターお問い合わせ

TEL 06-6480-7804 (直通)
「がん相談」とお申し出ください。

※相談料は無料です。 ※相談内容は守秘義務を遵守いたします。

相談時間 月～金曜日(祝日・年末年始を除く)
9:00～17:00(受付は16:00まで)

利用方法 面談・電話相談

予約 お電話でご予約ください。当日受け付けも可能ですが、状況によりお時間を調整させていただくことがあります。

※当院にかかっておられない方もご利用いただけます。

がん相談支援センターのご紹介



これからの時代、救急車受け入れ件数や手術件数といった単なる「量」の拡大だけではなく、一人ひとりの患者さんにとって真に価値ある「質」の高い医療への転換が必要と考えています。

各職種の専門性を生かし、患者さんご家族にも参画いただく協業型のチーム医療

クリニカルパス(P.4掲載)などを活用し、医療従事者間だけでなく、患者さんご家族とも治療や入院生活についての情報を共有します。

手術を受けられる患者さんの早期回復を促すERAS(イーラス)の実践

ERASとは「術後早期回復プログラム」のことで、「術後の回復を早める・質を高める」取り組みです。手術の前段階から、適切な栄養管理や筋肉量維持などを患者さんのご協力を得ながら図ることで、よりよいコンディションで手術を受けていただき、術後の患者さんの回復力を高め、早い段階での栄養摂取や合併症の防止などにつなげて、早期の社会復帰を目指すものです。

これからも、地域の皆さまに信頼され、選ばれ続ける兵庫県立尼崎総合医療センター(AGMC)であるため、全職員が力を合わせて取り組んでまいります。引き続き、変わらぬご支援をたまりませんようお願い申し上げます！

2026年1月20日(火)出演/ラジオではこんなお話をしてきました!

もっと身近に、もっと頼ってもらえる「なんとかしてくれる」病院であるために

POINT!

- ・三次救急医療機関としての使命
- ・地域完結型の医療体制づくり
- ・医療DXの推進
- ・小児・周産期医療
- ・小児アレルギー研究



ラジオはこちらから聴けます!



ラジオに出演した当院スタッフをAGMC広報チームが

「カボリ!」

A

塩野七生『ローマ人の物語』、司馬遼太郎『項羽と劉邦』、吳兢編・石見清裕訳『貞観政要』はおすすめです。最近では、瀧井一博『伊藤博文 知の政治家』です。

Q

おススメの本や、最近読んで興味深かった本などを教えてください。

A

犬の散歩で行く公園。割安でおいしい飲食店。

Q

尼崎のお気に入りのスポットは?

A

病院の運営方針を決めたり、診療科や各部門からの要望や院内で発生するさまざまな問題への対応策を検討したり、県や行政、他の医療機関との会議などに病院代表として出席したりしています。要望をかなえることが困難な場合の調整作業が一番大変です。

Q

院長先生って、普段どんなお仕事をしているの? 一番大変な業務は?

A

当院特有の運営と課題の把握で、あっと言う間の1年でした。10周年記念行事や経営改善への取り組みを通じて、優秀な職員の皆さんに支えていただいていることを改めて実感しています。

Q

AGMCの院長に就任されて1年。この1年を振り返っていかがですか?

読者の方・患者さんへの

メッセージ

本誌「読むAGMC」で当院の取り組みを知っていただき、職員をより身近に感じていただければと願っております。AGMCはこれからも皆さんに寄り添った医療を提供し続けます。

リクエスト曲

Sarah Brightman/
Andrea Bocelli

「Time To Say Goodbye」

カナダでの留学中、研究に行き詰まっていた時に聴いて励まされた曲です。さみしい曲のように聞こえますが、別れではなく新たな旅立ちの歌。折に触れて勇気づけられています。



院長 大嶋 勇成

おおしま ゆうせい



薬剤部



はじまっています! AGMCの薬剤師外来

薬剤部では現在、泌尿器科・産婦人科の抗がん剤治療の点滴を行っている患者さんを対象に、抗がん剤の各コース初日に薬剤師外来を行っています。薬剤師外来では副作用、抗がん剤投与量および必要な検査の確認をすることも、自宅に残っている薬の数を確認し、医師の処方をサポートしています。特に、抗がん剤治療では吐き気が起きやすく、吐き気止めの薬を使用することが多くあります。薬剤師外来では、患者さんの生活リズムを考えた吐き気止めを医師に提案するなど、患者さんの治療に貢献できるようお話を伺っています。

化学療法室でお困りの患者さんの元で
直接お話を伺っています。



患者さんの薬の服用・治療の不安を少しでも取り除けるよう薬剤師もお手伝いさせていただきます!

患者さんの心と身体が、少しでも楽になるように考え、祈りながら毎回お話をしています。

次長
太田 あづさ
おおた

外来がん
治療専門
薬剤師



吐き気、下痢、^{けんたい}倦怠感など、がん薬物療法ではさまざまな副作用症状が出現する可能性があります。ささいな症状でも、患者さんにとっては不安は大きいと思います。薬剤師として患者さんの不安に寄り添えるよう、知識を習得し、経験を磨いて、日々精進したいと考えています。

副主任
伊藤 史穂
いとう しほ

緩和やがんの
専門・認定を
目指す薬剤師



医師の診察前に患者さんと面談を行い、抗がん薬の適正使用や副作用管理を支援しています。副作用発現時には症状を軽減させるための支持療法を提案し、患者さんの負担軽減に努めています。治療の安全性向上とQOLの維持、医療スタッフの業務負担軽減を目指して活動しています。

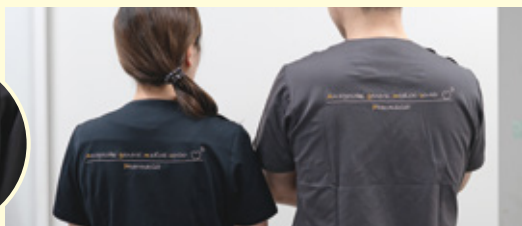
主任
古川 直登
ふるかわ なおと

外来がん
治療専門
薬剤師



AGMC 薬剤部の“こぼればなし”

1. 開院10周年を記念して、薬剤部のスクラブ(ユニフォーム)にオリジナルデザインを入れました。袖にはカプセル剤の刺繍が!



2. 抗がん剤調剤の様子が撮影されました。病院の薬剤部ならではの風景です。



2026年2月17日(火)出演/ラジオではこんなお話をしてきました!

薬剤のプロフェッショナルとして 安心して治療に向き合える取り組みを提供

POINT!

- 病院薬剤師の仕事
- 薬剤師外来の復活
- 外来がん治療専門薬剤師
- 安心安全な抗がん剤治療のために



ラジオは
こちらから
聴けます!



ラジオに出演した当院スタッフを
AGMC広報チームが
「カボリ」!

カボリ 2

休日の過ごし方

休みの日は外で遊びたい派。冬はスキー・スノーボード、春・秋は釣りですね。残念なことは昔に比べて運動量が徐々に減っていること。あとは、通勤ルートにあるラーメンがおいしいお店についつい立ち寄りしてしまうのが非常にヤバイです。

カボリ 3

今後の目標やビジョン

有資格者という立場もあり、今は後輩の育成がメイン業務になっています。自分の知識習得は当然として、がん治療に興味を持ち、今後の薬剤部の主力になるような人材をどんどん見つけて育てていくのが目標です。どの県立病院に行ってもがんに関する資格者が複数名いるので、交流を深めて治療に関して論議したいですね。

読者の方、患者さんへの

メッセージ

現在、泌尿器科・産婦人科で抗がん剤を点滴されている患者さんを対象に薬剤師外来を行っています。問診ではできる限り患者さんの色々な情報を知りたいしこちらからもお伝えしたいので、気になることがあれば何でもメモをとってきて、教えてください。



薬剤部同僚
佐子 綾香より

いつも冷静沉着で、鋭い分析力を持つ佐野次長は、薬剤部の要となる存在です。特に抗がん剤に関してはとても頼りになり、困ったり迷ったりした時に的確なアドバイスを下さいます。お昼は、おいしい愛妻弁当と大好きなジャアのマグカップで過ごされています。



挑戦してみなイカ!!

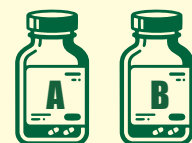
リクエスト曲
WANIMA

「やってみよう!」

何事も失敗を恐れずに
いろいろなことに
挑戦したいと思っています。
そんな気持ちを
後押ししてくれる曲。

調剤以外にこんなことも! 病院薬剤師のお仕事

■ 取り扱い薬品の選定



当院で使用するジェネリック医薬品について、医師とともに比較検討、選定しています。

■ ハイリスク薬品の管理



手術に使用する麻酔薬など、取り扱いに細心の注意が必要な薬品の管理を行っています。

■ 服薬治療に関する相談



患者さんとお話しし、医師に直接伝えづらいお薬の悩みや不安などについて相談に乗っています。

■ 服薬モニタリング



治療中の患者さんに対して数値や直接の様子からお薬の効き具合や副作用の有無を確認しています。

薬剤部次長
佐野 隆大

さのりゅうた

薬剤部

4月24日(金)

14:30~16:30

市民すこやかセミナー

最近の
脳梗塞治療について

講師 脳神経外科部長
多喜 純也

5月21日(木)

14:00~16:00

生活習慣病セミナー

代謝性肝疾患
(脂肪肝)

講師 消化器内科医師

7月9日(木)

14:00~16:00

認知症 講師 脳神経内科医師

9月10日(木)

14:00~16:00

肥満症 講師 糖尿病・内分泌内科医師

詳細確定次第ホームページでお知らせ致します

糖尿病教室のご案内
毎月第2木曜日10:00~11:30

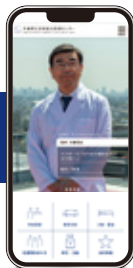
- 医師より——— 糖尿病について(病気について、合併症、検査)
- 薬剤師より——— 薬物療法について(低血糖含む)
- 管理栄養士より——— 食事療法について
- 理学療法士より——— 運動療法について
- 看護師より——— 日常生活の留意点

の内容についてお話しております!

ホームページを
リニューアル
しました!

スタッフが患者さんに
院内をご案内するかのよう
親切でわかりやすいホーム
ページを目指し、
リニューアルしました。
思わず「道草」したくなる
ような、
さまざまな情報も順次更
新中!
ぜひご覧ください。

スマホでも見やすいよう
再設計いたしました!



※ 画像は開発中のものです

